

事業所名	療育支援工房 熊西教室	支援プログラム	作成日 7年8月1日	
法人（事業所）理念	将来の自立に向けた支援を行い、1つでも多く、将来の選択肢を増やしていく			
支援方針	脳機能（ワーキングメモリ）・社会性のトレーニングをメインに行い、現状でのコミュニケーションスキルや課題点への支援、将来に向けた社会性の向上を図る			
営業時間	平日 10時00分から19時00分まで	送迎実施の有無 あり		
	学校休校日 9時00分から18時00分まで			
休業日	日曜日・お盆（8月13日～15日）・年末年始（12月30日～1月3日）			
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	健康管理：お迎え時、来所時の体調チェック・検温 / 手洗い・うがいの促し / 定時水分補給 生活：身辺処理・持物管理・活動・片付け等を自主的に行えるようルーティン化、時間提示 お買い物（おやつ時、昼食購入時）を日々行い、予算内で必要なものを買うこと、支払い時の対応を行う 食事：クッキングや課外活動を通じて、自分で出来る事を増やし、食育を通して、食事への興味・関心を持ち、知識を身に付ける		
	運動・感覚	手指を使った細かい作業：カリキュラムでは目で判断し、指を動かすもの、細かい作業を行うものに取り組む 指先の巧緻性・力加減：洗濯ばさみや紐・ビーズ等を使った作業、セラピー・パテを使ったトレーニングを行う バランス感覚・体幹：バランスディスクやボールを活用し、アプローチする / 遊びの中でもレゴやアイロンビーズ、バランスゲームを行う		
	認知・行動	認知行動：カリキュラムを活用し、収集した情報を基に行動に繋げる、指示を聞き、そのように行動する、等の活動を行う タブレットやプリント、バランスストーン、ビーズ・洗濯ばさみ・ブロックなどを通し、物の認識、图形・色の認識、空間認識能力の向上を図る 感情の概念・コントロール：SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して、感情の概念、感情のコントロールを学ぶ その他：遊びの中で、アイロンビーズやレゴ、パズル・カードゲーム等を通して、認知・行動への支援を行う		
	言語 コミュニケーション	非言語：絵カードの活用、ハンドサインや、指差し・身振りを活用し、意思伝達の機会を増やす 言語・指示理解：普段から伝え方にアプローチを行い、関わり方を学ぶ またSSTを遠し、感情のコントロール、行動のコントロールに対してもアプローチを行う 伝える事が苦手な生徒さんへのアプローチ：言葉を発さなくても伝えられるようにする（分からない時などのヘルプカード等の活用）徐々にコミュニケーション方法を増やしていく 文章読解：カリキュラムを通して文章読解の力を深める（3ヒントゲーム、文章の記憶、事実の整理等）		
	人間関係 社会性	人間関係・社会性：SSTのカリキュラムを日々取り組み、本児が課題としていることを一緒に考え、見直していく 実際に正しい行動が取れた際には、成功体験として得ることが出来るよう、褒める等、評価を行う 遊びの中でも声掛けの方法や、勝ち負け等を通しての感情のコントロール、クールダウン方法をアプローチする 課外活動を通して、集団行動を行う上でのルール・マナーを身に付ける		
家族支援	半年に1回の定期面談の他、必要に応じ、適宜面談等を行う 児童の発達 / 支援内容 / 家庭生活 / 集団生活 きょうだい児 / などに関する相談・助言等を実施	移行支援	インクルージョンへ向けた取り組み 教室での療育を通し、出来るようにになった行動を学校や家庭、外の環境でも同様に行えるよう支援を行う 学校や家庭と連携し、アプローチ方法を共有する	
地域支援・地域連携	教育機関、医療機関、児童相談所等の専門機関との連携を図る ケース検討の会議への出席等	職員の質の向上	職員研修：新人研修、支援者研修等、定期的に職員に向けた研修を行う。 グループワークを通して共通認識を持つ マナー研修、リーダー研修（伝え方等を含む） 虐待防止・身体拘束に関する研修、事故防止・感染症対策に関する研修、災害に関する研修・訓練の実施	
主な行事等	制作活動、クッキング活動、季節に関する活動、SSTグループワーク、課外活動（工場見学や、収穫体験、博物館など）等、様々な経験を経験し、知識や興味を育む			